

令和3年度 第1回遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会 議事概要

1. 日時

令和3年6月2日（水）10:00～11:30

2. 場所

遊佐町役場 議事所

3. 出席者（敬称略）

遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会

遊佐町商工会：阿部 副会長

NPO法人遊佐鳥海観光協会：佐藤 理事長

庄内みどり農業協同組合 遊佐支店：佐藤 支店長

一般社団法人酒田青年会議所：久木原 理事長

荘内銀行 遊佐支店：佐藤 支店長

株式会社きらやか銀行 遊佐支店：宮内 次長

株式会社山形銀行 酒田支店：小松 支店長

山形県漁業協同組合：伊原 理事（欠席）

東北公益文科大学：温井 教授

遊佐パーキングエリアタウン調査特別委員会：高橋 委員長

遊佐町総合交流促進施設株式会社：池田 代表取締役

オブザーバー

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：田村 課長

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：根本 専門官

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：澤井 課長

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：佐藤 道路企画専門員

事務局

企画課 PAT 整備推進室：佐藤 課長兼室長

地域生活課：畠中 課長

産業課：渡会 課長

企画課 PAT 整備推進室：池田 係長

企画課 PAT 整備推進室：伊藤 主事

株式会社 建設技術研究所 東北支社 道路・交通部：加藤（Web参加）

4. 議事

- 委嘱状の交付
時田遊佐町長より、委員会12名へ委嘱状の交付を行った。
- 委員長、副委員長の選出
委員の互選により、東北公益文科大学 温井教授を委員長に選出、委員長の指名により、NPO法人遊佐鳥海観光協会 佐藤理事長を副委員長に選出した。
- 協議事項
 - 1) これまでの経過
 - 2) 整備に係る検討事項と今後のスケジュール
 - 3) 組織体系について

5. 議事要旨

- 1) これまでの経過
 - 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、平成25年度から令和2年度までの検討経過について説明があった。
⇒ 特に意見なし。
- 2) 整備に係る検討事項と今後のスケジュール
 - 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、「遊佐パーキングエリアタウン基本計画」において、基本計画策定後に開催してきた儲かる道の駅勉強会や行政勉強会で議論を進めた中で変更点について、説明があった。
⇒ 推進委員会 委員より、整備の基本方針について、基本計画にDX、ソサエティー5.0、SDGsなど、新しい価値観も追加していく予定かと、質問があった。
⇒ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、社会情勢の変化に伴い新しい考え方も追加し検討していく予定であると、回答があった。
⇒ 推進委員会 委員より、青年会議所でも遊佐PATに対応する組織を作ることを想定しており、計画を確認する意味でも、コンセプトを実現するための4つのテーマを修正するのかと、質問があった。
⇒ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、基本計画の推進委員会であるため、基本計画を修正するのではなく、基本計画をベースに更新していく予定であると、回答があった。
 - 推進委員会 委員より、計画だけでなく、実施に向けた検討も深めてほしい。
⇒ 推進委員会 委員より、再生可能エネルギー施設は具体的な施設内容はあるかと、質問があった。

- ➡ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、太陽光発電など新たな再生可能エネルギーも含めて検討していると、回答があった。
- 推進委員会 委員より、過去の計画を策定してから一時中断しており、数年間で地域の実情が変化している中で、実現するための課題があると思う。莫大な事業費がかかるのではないかと思うので、町の予算を考慮しても、実現できる、未来にも良いものを作っていきたい。
- ⇒ 推進委員会 委員長より、事業費の話もあったため、施設の管理運営方式は銀行関係者から意見を伺いたい。建築の面からみても、駅長から意見を伺って施設を作る方が良いと考える。管理運営に係る調査が9月から始まると思うが、運営方式も考える必要があるのではないかと、質問があった。
- ➡ 推進委員会 委員より、事業主体として「鳥海」の移設となるかと思うので、遊佐町総合交流促進施設株式会社のノウハウを継承していくことは必要であると考える。国、県の補助金に加えて金融機関からの借入も必要になるかと思われる。他県からの利用者がこれまで以上に増えるような取組も必要かと思われるので、提携している企業も紹介しながら支援していきたいと、意見があった。
- ➡ 推進委員会 委員より、資金面は同意見である。名物駅長としては、県外の「象潟」や「あ・ら・伊達な道の駅」の駅長さんが成功しているのではないかと思う。「鳥海」も実績を出しているかと思うが、岩ガキ、遊佐米は生活クラブ生協へ行ってしまっているので、アワビ、サクラマス、イクラなども目玉にしてはどうかと、意見があった。
- ⇒ 推進委員会 委員より、コンセプトについては、道の駅を分析した上で設定したのか、成功したところや失敗したところの分析をしてからコンセプトを計画したのかと、質問があった。一般の企業でも強みを伸ばして弱みを抑えて計画をするため、一つの企業と同じようにマーケティングしていくことが重要であると考えられる。
- ➡ 推進委員会 委員より、過年度に様々な場所へ視察に行ったが、失敗の事例は分析していないと思われる。また、同じような社会条件、自然条件も分析に加える必要があると考えたと、回答があった。
- ➡ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、H28年に基本計画を作成当時に、遊佐町の「強み」を考えながらコンセプトを作成した。何度も他の道の駅の視察を行いながら、委員の方と議論しながら作っている。指摘のあった分析は詳細を実施しておらず、成功例は参考にしているが、失敗例はなかなか分析できていないため、今年度実施する調査の中で実施していく予定であると、回答があった。

- 推進委員会 委員長より、以上の内容に関連して、当時の検討内容などをお聞きするとともに、遊佐米に関する内容と、ジオパーク関連で観光の面からお聞きしたい。
- ➡ 推進委員会 委員より、直売所や道の駅を視察してきたが、岩手県では3～4kmおきに直売所が繁盛しており、直売所ごとに特色がある。群馬県の「川場田園プラザ」は目的化した道の駅であり、「ららん藤岡」のような都会型の道の駅は高速バスの発着所に利用料だけでも利益が出ている。コンセプトをしっかりと決めて、駅長等の人材を見極めて検討を進めていくことが必要だと感じていると、意見があった。
- ➡ 推進委員会 委員より、「地域に豊かさをもたらすスーパー道の駅」と「広域」をキーワードとして、遊佐町だけで完結する訳ではない。「鳥海」を一部の機能は残したうえで移転するのは確定しているが、計画検討に合わせて現場の声を反映できるように、内部でも意見交換をしているため提案していく予定であると、意見があった。
- ➡ 推進委員会 委員より、遊佐米以外のはえぬきは、消費が停滞しているが、生活クラブでは家庭での需要増により、米、地元の野菜、果物も提携を図っていくと、意見があった。
- ➡ 推進委員会 委員より、観光はコロナ禍で県内外の移動が減ってきているが、コロナの終息に伴って、新たな道の駅からの観光情報の発信を期待していると、意見があった。
- ⇒ 推進委員会 委員より、運営方式の民間は、遊佐町総合交流促進施設株式会社を想定しているのかと、質問があった。
- ➡ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、遊佐町総合交流促進施設株式会社は第3セクターの位置づけとなると、回答があった。
- ⇒ 推進委員会 委員より、今年度、官民連携の調査の実施時期は遅くないか、と質問があった。
- ➡ 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、スケジュール的に厳しい中ではあるが、手法について事務局でも決めかねているところもあるため、調査をして参考にしたいと、回答があった。
- 推進委員会 委員長より、調査の結果は委員会にも速やかに提供していただく。

3) 組織体系について

- 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会組織図及び遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会ワーキンググループの規約について、説明があった。

⇒ 特に意見なし。

4) その他

- 事務局（遊佐町企画課 PAT 整備推進室）より、次回の開催前に8月頃を目処にワーキンググループを実施する予定であると、報告があった。

以上